

## 小ブケ遺跡（第4次）・石名田遺跡

今、私たちが生活している地面の下には昔の人たちの生活の跡が埋もれています。これを遺跡と呼んでいます。遺跡のなかで工事を行う場合には、発掘調査をおこなって、大切な遺跡を写真や図面で記録します。



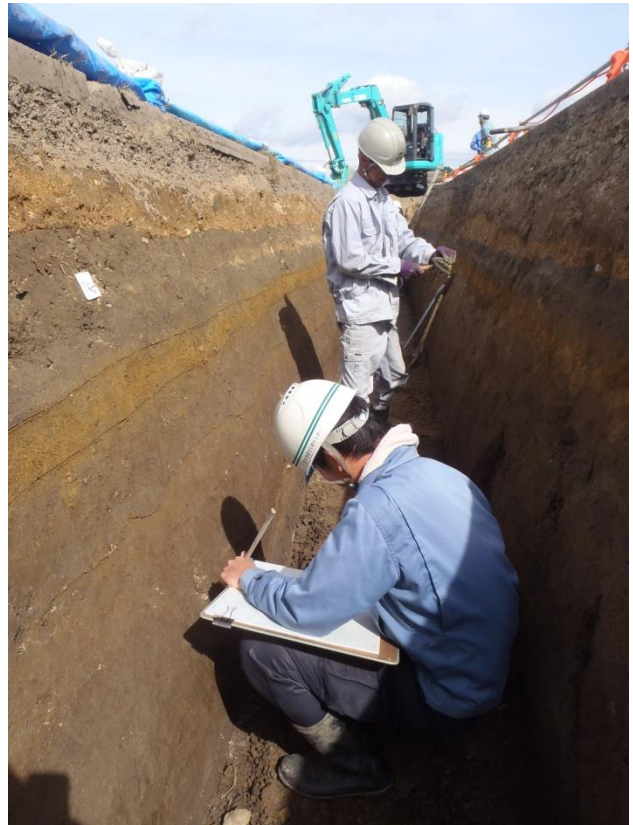
土器をていねいに掘ります



出てきた土器は袋に入れて持ち帰ります



写真をとります



図面を書きます

小ブケ遺跡・石名田遺跡での実際の発掘調査のようす

○ 小ブケ遺跡

小ブケ遺跡では、平安時代（約 900 年前）から鎌倉時代（約 700 年前）の穴や溝、建物の柱穴などが見つかりました。

また、遺跡からは土器が多く見つかりました。建物の柱穴からは白磁碗（はくじわん）がみつかりました。白磁は当時の日本では作ることができず、中国から運ばれた高級品でした。

○ 石名田遺跡

石名田遺跡では、古墳時代（約 1500 年前）の溝や、平安時代から鎌倉時代の穴や溝、建物の柱穴などが見つかりました。

また、多くの土器も見つかり、緑釉陶器（りよくゆうとうき）という緑色のお碗も見つかりました。緑釉陶器は当時日本で作られていた高級品で、まとまって出土するのは珍しいことです。このほか、鍋や皿など、生活で使われていた土器も見つかりました。

○ まとめ

今回の発掘調査では、平安時代から鎌倉時代に、この場所で人々が暮らしていたことが分かりました。また、白磁や緑釉陶器といった、高級品も見つかったことから、ここで暮らしていた人々は、このような高級品を手に入れることができる人々であったことが分かりました。

発掘調査は終わりましたが、これからは、見つかった土器を洗い、もとの形になるよう、パズルのようにくっつけて、さらに詳しく調べていきます。



柱穴で見つかった中国産の白磁碗



溝で見つかった鍋と皿



多くの緑釉陶器がまとまって見つかりました